

論文審査の要旨

1. 本研究の位置付け

①日中歴史教科書の編纂理念と教育上の役割を研究

本研究は、隣国として位置付けることができる日本と中国の歴史を教育現場で教材として使用する歴史教科書が如何なる編纂方針に基づいて編集されたのかを、単に理念だけを云々するのではなく、実際の教科書記述の比較分析を通じて抽出している。

②日中両国間の戦争や大規模軍事紛争に関する歴史事実を比較研究

単に教科書の編纂機関や検定機関の方針や組織を分析する方法を採らず、具体的に教科書記述のなかから、両国の編纂方針や検定方針の理念や意味を抽出している。

③史料を基礎にした分析と評価を抽出する歴史学の手法に則った研究

歴史学が標榜する史料学の基礎に則った分析と評価の提示という基本的な手法を採用し、一定の自己主張を提示する学説提示を行っており、歴史学研究として評価できる。

2. 本論文の特色と評価

①史料の渉猟と悉皆調査など、歴史学研究の基礎的手法を採用

日本の明治以降の歴史教科書約 600 点、1949 年以降の現代中国で使用された歴史教科書数十点を調査し、調査結果を研究分析に連結している。

②歴史教科書の記述内容が、現代社会にも繋がる問題を持つ素材である点を指摘

1894 年以降の半世紀にわたる戦争と軍事的大規模紛争を教育上どのように取り扱うのかという問題が政治的な外交問題ともなり、歴史教科書記述が常にその時代時代の政治と体制の方針に関係付けられてきた事実を提示している。

③東アジア地域の隣国として共通歴史認識を持ってない状況を、教科書からも提示

過去に日本・韓国・中国 3 カ国で共通の歴史認識に基づいた歴史教科書作りが国家プロジェクトとして検討された時期がある。日本も中国も互いに時の政治体制や国家方針に翻弄されてきた歴史教科書の姿を、記述比較から浮き彫りにした本論文は、今後の日中間の歴史教育及び相互認識にも大きく寄与する論文であると評価できる。

3. その他（申請要件充足の確認）

予備論文審査段階で掲載決定段階の 2 編（いずれも査読付き論文）の発行を確認した。
単著「戦後日本史教科書近代史記述の分水嶺—1982 年教科書問題に着目して—」『人間文化』37 号、2015 年 6 月、pp.27—36

単著「日本の歴史教科書が描く近現代の戦争・事変—理由付けの部分に着目して—」『史学研究』289 号、2015 年 9 月、pp.84—108

以上、基礎論文として査読付き論文 3 編があり、申請要件を充足している。

4. 判定

以上のように本論文は、日中の歴史教科書の近現代史記述を比較分析した論文であり、今後、日中の歴史教育の分野で必須の文献としての位置付けを確保できると予測される。以上の総合評価をもって、博士(人間文化学)の学位を授与するに相応しいものと認める。